

トマの風穴をめざして

上越 足拍子川・風穴スラブ

木下

【日時】2009年6月20日（土）

【メンバー】L木下 浅井 佐貫 栗原

足拍子川左岸にはいくつかのスラブルートが並ぶ。以前ダイレクトスラブをトレースし



ていたなのでその隣の風穴スラブにはおのずと目が行く、まさにコレクター根性かなあ・・・そしてそこには「トマの風穴」が！冷水の泳ぎ、雪渓、スラブ、藪漕尾根と短いながらのバラエティに富んだ1日でした。

6/20 晴

足拍子川
沿いの林道、ツヅ
ラ折れ手



前の空地に車をデポして出発。しばらく林道を辿り、経木ノ沢を渡った付近より入渓する。穏やかな沢筋を行くが木々の隙間からスラブが見え隠れして気分は高まる。小滝を越し、前手沢を過ぎると小さい雪渓が現われるが問題ない。このまま雪渓になり楽にアプローチできるかと思っていたが、その先のゴルジュは釜が出ており、雪解け水の泳ぎとなる。小さい釜なのだが2度泳がされて滝を登り、ようやく安定した雪渓に乗った。皆顔色が悪い、特に栗原さんは唇が紫色、さすがに冷たかった。



謙信の廊下も雪渓に埋もれているか、と期待したが初めの滝が割れており雪渓～高巻、はじめに横切る小沢から下降する、念のために5mほど懸垂をした。雪渓をもう少し登り前後を確認して風穴スラブの取り付けを確認した。小さな沢状でわかりにくい、上部に眼をやると「トマの風穴が！」

私と栗原さんはクライミングシューズに履き替え、浅井さんと佐貫さんはアクアステルスでスラブに入る。フリクションの利く小滝

をぐいぐい登ると5m程の立った滝、古いリングボルトがある、慎重を期してロープを付け木下が登る。ここより快適なスラブとなる、階段状でフリクションも利きぐいぐい登れるので息が切るほどだ。振り返ると取付の雪渓が見え、なかなかの高度感。スリップすれば雪渓まで止まらないであろう。

スラブの中が狭まると傾斜が増し栗原さんリードで1Pロープを出す、ここもホールドの遠いところに残置があった。再び傾斜が落ちてフリーで登る、風穴を目指して右のスラブを行く。風穴が指呼の距離になると風化した小石がスラブに乗っていて滑りやすくなる。高度感も出



てくるので木下リードでロープを引く、調子に乗って真ん

中を行くが次第に悪くなる。ここは右のブッシュ沿いが正解であろう。サポートしてもらい際どく右ブッシュにトラバース。そこから急なブッシュを上りでトマの風穴へ。

風穴は高さ5m・巾20m・奥行10mの大穴。中は

傾斜しているの泊ることは出来そうにない、「節理が風化して欠落したのかなあ」と。だが不思議な大穴である。

詰めは岩峰沿いに登り、高度間のある悪い草付きを行く。佐貫さん先行で後続はフィックスを使用する。風穴沢との中間尾根にでて15分ほどの藪漕ぎで主稜線に到着。主稜線は全くの藪かと予想していたが所々踏跡もあり、思ったより順調に荒沢山のピークに到着した。低いながら静かな良きピークでした。

カドナミ尾根を下山する、踏跡がなくなるところもあるが、佐貫さんの「藪を読む目」は鋭く、迷うこともなく土樽へおおよそ1時間半で降りた。タクシーで車を回収（¥4000）、満足いく1日でした。



【行程】 足拍子川林道（6:35）－経木ノ沢（6:50）－風穴沢（7:50）－風穴スラブ取付
－（8:20）－トマの風穴（11:30-50）－稜線（12:30）－荒沢山（12:50-13:10）
－土樽駅（14:30）

【地図】 土樽 茂倉岳